



ルール変更のお知らせ

主審なしのセルフジャッジの試合方法について、JTAのルールが一部変更されたため、当協会の大会も変更されたルールで運用します。大会に参加される選手の皆様は、今回のルール変更と合わせ、裏面の「セルフジャッジ5原則」を遵守していただきますよう、お願いいたします。

1 コールの変更について

○「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」に関しては、**両プレーヤー／チーム**がコールできる。

- ・**ネット**（サーブがネットに当たって、レシーバー側へ越える）
- ・**スルー**（ネットの間をすり抜けた）
- ・**タッチ**（ボールが身体に触れた、体がネットに触れた、ラケットに触れたなど）
- ・**ノットアップ**（2バウンド以上で返球）
- ・**ファウルショット**（故意の2度打ち、ネットを越えて返球）

○「アウト」「フォールト」「フットフォールト」「レット」「オーバールール」「ヒンダランス(妨害行為)」については、変更はなし。

*フットフォールトは、ロービングアンパイアを呼んで、見てもらう。

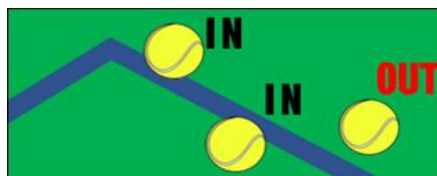
2 ミスジャッジを直ちに訂正した場合

- ・インだったボールを誤って「アウト」とミスジャッジしたが、直ちに訂正した場合は、1回目は**ポイントレット**とし、2回目以降は失点となる。ただし、**明らかなウイニングショット**のときは、1回目から失点する。 *例えば、サービスエースのような、100%返せないようなショットは1回目からでも失点となる。
- ・ダブルスの1人が訂正すればチームが訂正したこととなる。

3 参考

・アウトの判断

*ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えた時は「アウト」のコールができますが、明確に空間が見えなかった時は「イン」です。



試合におけるフェアプレイの推進

フェアプレイはスポーツの基本です。それは、①ルールを守る、②対戦相手をリスペクトし、③スポーツマンシップにのっとり正々堂々と戦うことを意味します。日本テニス協会は以下の2つのテーマに取り組んでいます。皆様のご理解とご協力をお願いします。

1. セルフジャッジ5原則順守のお願い

コート内では時としてトラブルが起きます。その多くはセルフジャッジの試合におけるイン・アウトの判定や、スコアの食い違いなどに起因するものです。とりわけ、ジャッジコールが対戦相手に聞こえない場合やハンドシグナルが曖昧な場合のトラブルです。試合でのフェアプレイ向上のため、日本テニス協会は、セルフジャッジ5原則の順守を推進し、ジュニア選手、のみならず全てのテニスプレイヤーに対して、セルフジャッジ5原則順守の呼びかけを行っています。ジュニア選手の保護者や指導者の皆様にも、目前の試合の勝ち負けに一喜一憂することなく、スポーツマンシップにのっとりフェアな試合が行なわれるよう、ご支援ください、よろしく申し上げます。

セルフジャッジ5原則

- ① 判定が難しい場合は「グッド」（相手に有利に）！
- ② 「アウト」または「フォールト」はボールとラインの間に、はっきりと空間が見えたとき！
- ③ サーバーはサーブを打つ前、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンス！
- ④ ジャッジコールは、相手に聞こえる声と、相手に見えるハンドシグナルを使って速やかに！
- ⑤ コートの外の方は、セルフジャッジへの口出しはしない！

2. ゲームの始めと終わりに「あくしゅ、あいさつ、フェアプレイ」の心がけのお願い

プレイヤーは、試合の終了時に対戦相手と握手するだけでなく、試合前にも、相手をリスペクトして握手し挨拶することを心がけましょう！ そして試合中は、スポーツマンシップにのっとり、自分のベストを尽くし、フェアプレイに徹しましょう。

